第１次菊川市文化振興計画

総　評

静岡県　菊川市

第１次菊川市文化振興計画　総評

１　計画の概要

(1)　計画期間

１次計画：平成 24（2012）年度～令和３（2021）年度

前期　平成 24（2012）年度から平成 28（2016）年度までの５年間

後期　平成 29（2017）年度から令和３（2016）年度までの５年間

(2)　文化の定義

①自然　②歴史　③生活習慣　④教育　⑤産業

(3)　基本理念

本市独自の文化を見直し、継承していく「人づくり」「地域づくり」を最重要課題とし、本市に根差す文化の振興を図り、新たな市の文化構築を目指すこと

(4)　基本方針

市民自らが考え行動する、地域づくり・まちづくりへの参画を図っていきます。

市民・行政・学校・関連団体等が連携・協力し、人材を育んでいきます。

様々な文化の情報や場を提供し、市民の誰もが気軽に、楽しく参加できるオープンな活動機会を増やします。

本市の文化資源の再発見・再評価を行い、自分達が住む市・地域への誇りを育み文化への関心・知識を高めます。

(5)　基本施策

①　豊かな自然と美しい景観の保全

②　歴史・文化遺産の継承と活用

③　豊かな生活文化の継承

④　芸術文化・スポーツ活動の振興

⑤　人づくり・地域づくり

(6)　重点的な取組

①　「情報発信力」の向上

②　「菊川アーカイブ」づくり

２　第１次菊川市文化振興計画事業実施計画にて設定した評価指標及び実績値

施策の柱	成果指標	基準値	目標値	前期実績	後期目標値	実績値
		H22(2010)	H28(2016)	H28(2016)	R3(2021)	R3(2021)
生涯学習の充実	生涯学習講座の参加者数	527人	550人	351人	600人	44人
	図書貸出し冊数	346,732冊	400,000冊	374,056冊	420,000冊	363,135冊
歴史・文化遺産の継承と活用	文化財の講座・見学会に参加した人数	122人	160人	834人	1000人	44人
文化活動の振興	文化会館自主公演事業の入場率	69%	75%	92.5%	93%	93.7%
	年に1回以上芸術や文化の活動を行った人の割合	18.1%	50%	19.3%	55%	※15.4%
	年に1回以上芸術や文化を鑑賞した人の割合	46.9%	90%	38.6%	90%	※31.3%

※　　令和４年市民アンケートより

３　第１次菊川市文化振興計画後期事業において評価委員の評価

事業評価についてＡ、Ｂ，Ｃの３段階で評価を行った。

事業評価基準については以下のとおりである。

事業計画に対して達成、概ね達成　　Ａ評価（概ね80～100％）

事業計画に対して一部達成　　Ｂ評価（概ね60～80％）

事業計画に対して未達成、未実施　　Ｃ評価（概ね59％以下）

基本施策	主要施策	主要施策数	実施事業数	担当課の事業評価				評価委員個人評価			評価委員会評価
				A	B	C	なし	A	B	C	
1 自然											
豊かな自然と美しい景観の保全	(1) 美しい地域景観づくり	3	5	5	0	0	0	7	0	0	A
	(2) 河川環境の保全と親水性の推進	2	4	4	0	0	0	7	0	0	A
	(3) 里山の保全	5	9	8	0	0	1	7	0	0	A
2 歴史											
歴史・文化遺産の継承と活用	(1) 文化財の保護・継承	4	7	7	0	0	0	7	0	0	A
	(2) 埋蔵文化財の保護 ・発掘	4	8	8	0	0	0	7	0	0	A
	(3) 文化財の周知・活用	3	4	4	0	0	0	7	0	0	A
	(4) 郷土の発展に尽くした人々の顕彰	2	3	3	0	0	0	6	1	0	A
3 生活習慣・産業											
豊かな生活文化の継承	(1) 地名の保存と活用	2	2	2	0	0	0	6	1	0	A
	(2) 方言の保存と活用	2	2	1	1	0	0	3	4	0	B
	(3) 地域の伝統行事・食文化の継承	3	4	1	1	2	0	0	4	3	B
	(4) 伝統工芸・昔遊びの 継承	1	1	1	0	0	0	6	1	0	A
	(5) 茶の産業文化の継承生活文化の推進	3	4	4	0	0	0	7	0	0	A
4 教育											
芸術文化・スポーツ活動の振興	(1) 市民の芸術文化活動の振興	3	4	4	0	0	0	5	2	0	A
	(2) 優れた芸術文化の鑑賞機会の提供	4	7	7	0	0	0	6	1	0	A
	(3) 中学校・高等学校等との文化交流	2	3	3	0	0	0	7	0	0	A
	(4) 国民文化祭の成果の活用	2	3	3	0	0	0	6	1	0	A
	(5) スポーツ活動の振興	4	8	6	2	0	0	3	4	0	B
5 次世代へ											
人づくり・地域づくり	(1) 文化を引き継ぎ・担う人材・環境づくり	3	6	4	0	2	0	2	4	1	B
	(2) 地域づくりの推進	5	8	7	0	1	0	6	0	1	A
6											
重点的な取り組み	(1) 「情報発信力」の向上	3	6	5	0	1	0	6	0	1	A
	(2) 「菊川アーカイブ」づくり	3	6	2	2	2	0	0	6	1	B

４　第１次菊川市文化振興計画後期事業各主要施策に対する評価、意見

(1)　豊かな自然と美しい景観の保全

①　美しい地域景観づくり

・拠点や案内板等の整備は老朽化が激しく進む前に、定期的に保守するなど、他地区から来る人に対し、日常的に保全に努めているというアピールもあるので景観保全をこれからも進めてほしい。

・予算をかけた拠点整備なので、市民対象のウオーキングコースなどをつくったり、その参加イベントなどの開催や市内見所パンフなどを飲食店や事業所など市民の目の止まるところにおくなどデジタル、アナログ両面からの発信も必要。

・自然環境の保全、再生が図られ来訪者への利便性と景観の情報発信に努められてよかったです。

②　河川環境の保全と親水性の推進

・環境保全への関心を高めるためには、園や小中学校の若い世代に働きかけ、活動参加や啓発活動などを継続的に行うことが大切と考える。

・川の周辺の除草作業など地域の自治体が行う場合は、地元の人々の高齢化で負担が増す場合もあるので配慮も必要になってくる。

・環境保全と水質浄化は子どもから大人の幅広い取り組みが肝要。公共下水事業拡大には限度があり、その為に現状データを示した広報活動が大切となる。一方では防草作業等で高齢化による課題が残る。広く点検する中で市民が主体的に活動しやすい環境づくりが求められる。

③　里山の保全

・アエル付近の散歩コースはよく利用しているという声もある。河川敷や土手を利用した市民が利用できる環境を広げていってほしい。

・利用者の利便性を図られるとともに、美しい景観の保全に努められ里山の景観維持管理が保たれよかったです。

・「ため池・河川のリクリエーション活用」について、国交省と市で会議を立ち上げているが、なかなか進んでいない。

・上倉沢の棚田に続く第２の里山保全活動を見つけ出す取組み・仕掛けを期待したい。

(2)　歴史・文化遺産の継承と活用

①　文化財の保護・継承

・歴史や文化遺産については社会科や総合的な学習の時間等の授業で扱ったり見学・体験ができる機会を計画的に行うことで継承と活用につながる。

・文化財を広く市民に周知するためにパンフレットが刊行されたのは良かったです。

・コロナ関係で伝統芸能の技術伝承の取組活動が少し弱っている感じます。

・文化財はシビックプライドのもとになるため、顕彰と情報発信によりいっそう努められたい。

② 埋蔵文化財の保護 ・発掘

・埋蔵文化財センターどきどき」の存在自体、市民に十分に知られていないように思う。「どきどき通信」の小中学校配布、登録者へのメール配信だけでなく、さらにアピールする方策はないか。

・埋蔵文化財について大変関心がある人ない人に分かれると思う。関心のない人にも重要性について理解してもらう啓発が必要と思います。

・文化財の周知・活用企画に苦心されると考えるが、先ずは関係する地元住民を巻き込む（関心を呼び込む）仕掛けが必要かと思う。地区センター祭り等の機会も活用する等いかがだろう。

③ 文化財の周知・活用

・『必要に応じ小・中学校や自治会、老人会等に職員が出向き、郷土の偉人の業績や歴史的背景を解説』）については「必要に応じ」という待ちの姿勢を、もっと積極的にアピールする形にしたい。

・梅まつりには浜松、沼津方面からのお客様もあり楽しみにしてくれている方も多いです。ほめていただくこともありテレビ、新聞にて報道されると翌日は満車状態です。

・一般の市民活動団体と連携した、誰でも気軽に参加し易い歴史講座を期待したい。（例：歴史クラブなど）

④ 郷土の発展に尽くした人々の顕彰

・小学校の社会科の地域資料集があれば、郷土ゆかりの人物として取り上げていけば、子供たちにも認知されやすい。

・旧町史編纂時の収集資料を整理、活用する必要がある。また郷土資料はその価値を顧みられることなく、日々、破棄されていくことが多い。それを少しでも防ぎ、継続的に調査、収集していく必要がある。そのためには人材や予算、場所などの充当が必要であろう。

・郷土ゆかりの人物を見つけ出し、広く紹介することは難儀することだろう。先人の遺徳は市内各所に顕彰碑として残されていることが多いのではないか。先ずはそれらを拾い集めて地元住民に再認識してもらうのも市民には新たな発見となる。

(3) 豊かな生活文化の継承

① 地名の保存と活用

・旧菊川町分の地名の語源や由来についての調査はできているのか。

・珍しい地名の由来や方言などを「ご当地グッズ」として観光地、売店においたり、各イベントで配布するなどして広める方法もある。デザインなどを高校生に担当させることで話題作りにもなる。

・昔の小字はその地の歴史がつけられたものも多い。例えば新しく開墾された所は、新田など昔の小字から知ることも必要と思う。

②　方言の保存と活用
・若者の方言離れが進む一方、方言の宝庫である高齢者は今後減少していく。今のうちに方言調査を進める必要があると思う。
・珍しい地名の由来や方言などを「ご当地グッズ」として観光地、売店においたり、各イベントで配布するなどして広める方法もある。デザインなどを高校生に担当させることで話題作りにもなる。

③　地域の伝統行事・食 文化の継承
・地域の伝統行事や食文化は近年急速に失われつつあり、早急に調査・整理が必要であると思う。地元民にとっては、当然のこととしてこれらに気付かないことが多いと思われるので、地域外出身者に指摘して貰うのが良いと思う。
・市内産食材を活用し地産地消につなげていってほしいです。
・菊川の食文化と問われても、昔も今日も特徴的なものは聞いたこともない。食育推進や地産地消の取組みは評価するとともに、継続は大切である。実施事業項目としたことを再点検すべきでは…。

④　伝統工芸・昔遊びの 継承
・焼きびなづくり以外の伝統工芸や昔遊びの発掘もお願いしたい。
・「焼き雛づくり」は市民の中にもやってみたい、継承したいと思われる人もいるかもしれないので、ステップアップ講座等に入れて、体験や継承できる人を育成していくこともできる。
・焼き雛の伝統継承は年々難しくなろうと思われるが、毎年の取組み企画がクッキーづくりに主体を奪われぬように願う。

⑤　茶の産業文化の継承生活文化の推進
・お茶と言えば、ペットボトルで飲むものと思っている人が増えている。急須を使ったおいしいお茶を淹れる文化を広めたい。
・菊川市の魅力や景観の情報を発信し、消費拡大の啓発を図ったことは大切であると思う。
・お茶産業は、以前より活気が無くなって来ているように思います。「茶の産業文化の継承生活文化の推進」等によって菊川の昔からの茶産業を中心とした生活文化を大切にしてゆきたいと思う。そして、菊川カラーを持つことも大切と思います。
・茶業界が大きく変革している中で、懸命に茶の文化を発信する取り組みは本市にとって重要な位置づけと思う。消費の低迷や嗜好の変化を敏感に感じ取って、実施事業の内容もタイムリーに変化させる必要があろう。

(4) 芸術文化・スポーツ活動の振興

① 市民の芸術文化活動の振興

・新型コロナウィルスの感染拡大により各種行事が中止になったことは残念ながらやむを得ないことであるが、今後 COVID19 感染症は５類に移行するようなので、早急に各行事の復活を望む。

・「文苑きくがわ」の再開を要望する声もある。紙媒体に代わり、HP などのネット上に掲載するなどの形で文筆活動を支援する事業も視野に入れたい。

・文化協会会員の高齢化に加えコロナ禍の活動自粛が文化芸術活動全体に影響が生じつつあると思われる。歴史ある美術展も市民絵画コンクールへ規模・内容も大きく変化したが、参加人数を如何に拡大させるか知恵を出す必要がある。

② 優れた芸術文化の鑑 賞機会の提供

・生の芸術文化に触れる機会が少ない小中学生のために、鑑賞機会の継続をしてほしい。

・子供のころから本物の芸術に触れあうことでより向上することが考えられる。本物に触れる機会の増加が必要と思う。

・伝統的との言えた書き初め展も教育現場の負荷と展示・撤収作業の負担から希望者のみへと規模縮小となったが、市民には依然として根強い人気イベントと思われる。夏休み体験講座もアエル会場で他のイベントと同時開催となることから今一度、場所も含めて検証が必要と思われる。

③ 中学校・高等学校等との文化交流

・市民の芸術文化活動の振興と同様、行事の復活をしたい。

④ 国民文化祭の成果の活用

・「文苑きくがわ」を発行して文化協会加盟団体の活動紹介を行っていますが、なかなか人数増加はなく高齢化でしかたないと思う。

⑤ スポーツ活動の振興

・今後各種活動の復活をしたい。なお、市役所本庁横の体育館は余りにもみすぼらしい。早急な改修または立て替えが望まれる。

・ネット抽選により施設を借りるときの利便性が向上した。鍵の借り、返却が窓口なのでネットで鍵の解錠、施錠ができるように仕組みを作ってほしい。

・スポーツ活動の推進について（体育協会）はコロナの関係で活動がストップしている。活動拠点の総合体育館がコロナの予防接種会場となり使用できないことが大きい。今年度から活動を再開していきたいと思っています。

(5) 人づくり・地域づくり

① 文化を引き継ぎ・担う 人材・環境づくり

・人づくり・地域づくりは将来への布石として大変重要と思う。各項目のさらなる充実を図りたい。
・以前に比べてステップアップ講座の開催数が減っているように思う。人数制限を緩和するなどして講座開設を増やせないか。また講座として１回完結型では内容が薄くなりすぎるように思う。
・子供会活動は地域の親に役員選びなどで負担になっているところがある。
・「放課後子ども教室の支援」事業に関係してみて、参加する子供たちは大変意欲的で、手伝う側としても、毎回楽しんでいる良い事業と思う。

②　地域づくりの推進
・多文化共生地域づくりの推進、地域主催の外国人交流事業については、今後ますます必要になると思われる。一層の努力を期待する。
・地域づくりは大切だが各自治会では、高齢でも働いている人が多く、役員選びに苦慮している。イベント等への協力も大変になってきている。存続させたいイベントは民間業者に委託することも必要になってくる。
・自主活動には余りこまかな条件等をつけずに積極的に活動できるよう支援が必要。
・市内各地区に主体的に活動する若者の団体・仲間が活発に動いている。行政ではなかなか見つけられない課題に挑戦するなど力強い感がする。高校生の参加も常態化するなど、今後の活動が期待される。

(6)　重点的な取り組み
①　情報発信力の向上
・市役所職員が担当の場合、職員の負担が多くなる場合がある。専門職員をおいたり民間委託なども考えてほしい。
・アエルは国内５本の指に入る会館。芸術文化や文化財に関する情報を内外に発信、市民に情報を多いに発信していただきたいです。
・新聞記事に毎日菊川市のニュースが載っているのか見ることが楽しみです。残念ながら、菊川市の記事が少ないように思います。
・恒常的な情報発信活動が必要。そのためにはヒトと場所を定める必要が大切。

②　菊川アーカイブづくり
・どんな資料や情報をどのようにアーカイブするのか、またどうしたらそれらを簡単に引き出すことができるようになるのかについて、十分に検討されたい。
・アーカイブ化は大きな労力を必要とするので、図書館だけでは荷が重いと思われる。拠点となる組織、施設と人材、予算があると好ましい。
・今後の計画策定に検討事項が沢山発生すると思われるが、「納期」と「誰が責任者」として実施するのかを明確にし、遅れが生ずればその遅れ解消法はどうするのか、確実に進めていく姿勢をお願いした

5　第１次　菊川市文化振興計画　総評価結果

(1)　市民の文化活動状況

第１次計画に位置づけられた多くの事業が実施され、文化の振興が図られた。

市民アンケートによると、文化振興に対する満足度、重要度は他の課題と比較して低い傾向にある。しかし、満足度や重要度は以前より上昇しており、市民の文化振興への興味関心の高まりを感じることができるようになった。

一次計画に基づいて展開した施策は一定の効果をあげ目指してきた方向性は適切であると考えられるものの、まだ市民各人の鑑賞や活動においては十分には結び付いていないと分析することができる。一方、新型コロナウィルス感染症拡大防止により、市民の文化活動に制約が生じ、講座の参加人数が目標値に届くことが難しい状況でもあった。

誰もが気軽に芸術文化に触れ、いきいきと文化活動ができるような環境を整え、芸術文化の良さを実感できる機会のさらなる創出に課題があるといえる。

(2) 文化資源や文化財の保存と活用

古くから続く地域の文化を継承するためには、活動団体の高齢化や感染症の影響等を考慮した活動方法について、解決方法を引き続き検討する必要がある。

収集・整理を行った文化財や郷土資料は、適切に保存を行うとともに、それらの活用の方法が課題としてあげることができる。また、方言の保存活用や、地域の伝統行事、食文化の継承については、記録保存の方法等の再度検討が求められる。

(3) 文化に関わる人材育成

地域での付き合いが薄れている状況の中、市民同士のつながりが感じられる文化的活動を支援する必要がある。

伝統文化の担い手の育成が重要である。そのためにも、市民が地域の歴史や文化に興味を持てる取組を行う必要もある。

文化を継承していくには、活動する方への支援はもとより、鑑賞者のすそ野拡大するための取組が重要になるといえる。

(4) 文化に関する情報発信

芸術文化に関する情報について、市では多様なＳＮＳなどを活用し、発信を行っている。より市民目線での発信が活発に行われるようになるためには、市からの発信を強化するだけではなく、市民自身が情報を発信することへのサポートなどを行う施策の取組が不可欠である。

施策の体系図

大項目	中項目	主要施策	実施事業
1 豊かな自然と美しい景観の保全	(1)美しい地域景観づくり	①美しい地域景観の保全と活用	森の力再生事業
		②展望拠点の整備	桜の名所保護保存事業
			県立自然公園(横地城跡、丹野池、石山公園)の維持管理費
		③案内図・案内板の整備	菊川市観光資源調査
			観光看板設置事業
	(2)河川環境の保全と親水性の推進	①水質浄化への取り組みと啓発	公共下水道汚水処理人口のUP
			水生生物調査
		②水辺環境の保全と活用	河川愛護・海岸清掃
			リバーフレンドシップ制度
	(3)里山の保全	①ため池・用水路の歴史の調査、整理	市内のため池・用水路の歴史を調査、整理
		②ため池・河川のレクリエーション活用	土地改良整備事業(老朽ため池の管理・整備)
			桜づつみ維持管理委託業務
		③上倉沢の棚田など、市民による継続的な環境保全活動の支援	多面的機能支払交付金
			森の力再生事業(再掲)
		④地域やNPOなどの主体による里山保全活動のPRや支援	市民活動団体及びNPOの設立及び活動支援
			多面的機能支払交付金(再掲)
		⑤里山づくりに取り組むボランティアの育成	市民活動団体及びNPOの設立及び活動支援(再掲)
			桜の名所保護保存事業(再掲)
2 歴史・文化遺産の継承と活用	(1)文化財の保護・継承	①文化財の調査を実施し、文化財保護審議会で審議した上で、重要なものを指定	市内文化財調査事業
			文化財保護審議会運営事業
		②黒田家代官屋敷や応声教院などの建造物は日常管理を行うとともに、必要に応じた修理を実施	指定文化財管理事業
			指定文化財修理事業
		③史跡や天然記念物は現況の保全に努め、必要に応じて整備、改修	史跡等管理事業
			史跡等整備事業
		④保存団体等が行う伝統芸能の技術継承の取り組みに対する支援	保存団体等補助事業
	(2)埋蔵文化財の保護・発掘	①埋蔵文化財の所在を確認	埋蔵文化財包蔵地管理事業
			埋蔵文化財包蔵地試掘確認調査事業
		②開発事業に伴って開発者と協議を行い必要な場合は発掘調査を実施	埋蔵文化財保護事務事業
			埋蔵文化財発掘調査事業
		③埋蔵文化財の調査研究とともに適切な保管	埋蔵文化財調査研究事業
			埋蔵文化財管理事業
		④展示、公開事業や貸出に関る情報収集・情報提供	埋蔵文化財活用事業
			埋蔵文化財情報発信事業
	(3)文化財の周知・活用	①黒田家代官屋敷資料館、塩の道公園、埋蔵文化センターの3施設を「歴史文化ゾーン」と位置づけ、市民のニーズに即した学習機会や情報を提供	歴史文化ゾーン推進事業
		②黒田家代官屋敷資料館の運営を行い、黒田家の歴史や近世・近代の小笠地区の歴史を紹介	黒田家代官屋敷資料館運営事業
			黒田家代官屋敷公開事業
		③要請に応じ小・中学校や自治会、老人会等に職員が出向き、郷土の偉人の業績や歴史的背景を解説	文化財講座実施事業
	(4)郷土の発展に尽くした人々の顕彰	①郷土の発展に尽くした人々の発掘	まちの魅力発信事業
			郷土ゆかりの人物コーナーの設置
		②現在活躍中の方々との交流や情報発信	郷土資料の収集・整理
3 豊かな生活文化の継承	(1)地名の保存と活用	①菊川らしい色合いの歴史、風土を表している地名の調査、整理	郷土の地名に関する情報の収集
		②地名の語源や由来を調査し、記録	「小笠町地名語源解説」の児童向け資料作成
	(2)方言の保存と活用	①民俗・生活文化を表す方言を調査	郷土の方言に関する情報の収集
		②調査した方言を整理・記録	方言を使った児童向け資料の作成
	(3)地域の伝統行事・食文化の継承	①地域の伝統行事・食文化の調査、整理、保存	菊川市の食文化の調査、整理、保存
		②地域の伝統行事、食文化の活用	菊川市の食文化の活用
		③食育及び地産地消の推進	食育の推進
			ふるさと給食週間事業
	(4)伝統工芸・昔遊びの継承	①手作りの伝統工芸の技術の継承	どきどきフェスティバル(焼き雛づくり)

大項目	中項目	主要施策	実施事業
3 豊かな生活文化の継承	(5)茶の産業文化の継承 生活文化の推進	①茶産業文化継承	おいしいお茶の淹れ方教室
			菊川・小笠手揉み保存会の事業支援
			グリーンツーリズム事業(交流定住促進事業)
		②深蒸し茶発祥の地の情報発信	
		③お茶を飲む文化の推進	茶の消費拡大事業
4 芸術文化・スポーツ活動の振興	(1)市民の芸術文化活動の振興	①自主的な芸術文化の創造と発表機会の拡充	菊川市文化祭の開催
			菊川美術展の開催
		②市内外の芸術文化活動の情報提供	イベントカレンダーの作成・配付
		③活動拠点の充実	中央公民館の活用
	(2)優れた芸術文化の鑑賞機会の提供	①優れた芸術文化の鑑賞機会の提供	教育委員会による芸術文化振興委託事業
			菊川市写生大会の実施
		②より深く理解するための機会の提供	夏休みゆかいな体験講座
		③子どもも参加しやすい鑑賞機会の提供	子ども向け芸術文化鑑賞事業の実施
			菊川市書き初め展の開催
		④創作・発表機会の提供	菊川市文化祭の開催(再掲)
			菊川美術展の開催(再掲)
	(3)中学校・高等学校等との文化交流	①交流事業の推進	菊川市文化祭の開催(再掲)
			菊川美術展の開催(再掲)
		②広報活動の推進	市やアエルで行う事業や講座の広報
	(4)国民文化祭の成果の活用	①芸術文化活動に携わる個人・団体の交流の場づくり	菊川市文化協会の活動支援
		②国民文化祭で得た運営ノウハウなどの、市内の文化関係イベント(例:菊川市文化祭、菊川美術展)への活用	菊川市文化祭の開催(再掲)
			菊川美術展の開催(再掲)
	(5)スポーツ活動の振興	①一人1スポーツの推進	スポーツ教室の開催
			スポーツイベントの開催
		②地域に根ざしたスポーツ団体等の育成	市体育協会の育成・強化
			スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの育成・強化
		③地域に根ざした生涯スポーツの環境整備	スポーツ推進委員の充実
			スポーツ推進審議会の開催
		④スポーツ施設の利活用の推進	施設貸出抽選会の開催
			体育施設への指定管理者制度の活用
5 人づくり・地域づくり	(1)文化を引き継ぎ・担う人材・環境づくり	①次代の菊川文化を担う人づくり	放課後子ども教室の支援
			家庭教育学級委託事業
		②生涯学習の充実	ステップアップ講座の開設
			図書館資料の充実
		③若者参画の地域づくりの推進	子ども会活動の推進
			インターネットを活用した情報発信
	(2)地域づくりの推進	①コミュニティ協議会への支援	コミュニティ協議会運営支援
		②1%地域づくり活動交付金の活用	1%地域づくり活動交付金事業
			1%地域づくり活動交付金活動報告会
		③市民活動団体の活性化	市民活動団体及びNPOの設立及び活動支援(再掲)
		④多文化共生地域づくりの推進	外国人向けパンフレットの配架
			窓口通訳、翻訳業務及び情報発信
		⑤地域主催の外国人交流事業	国際交流協会事業への支援
			地区等主催の外国人交流事業への支援
6 重点的な取り組み	(1)「情報発信力」の向上	①「情報発信力」向上のためのキーパーソン等の人材育成	菊川市親善大使の任命
			広報・ホームページ委員会
		②新聞、テレビ、ラジオ等のメディアを利活用した情報発信・情報提供	菊川文化の情報発信事業
			報道機関への情報発信
		③地元の情報の収集と市民への発信方法の検討	地元の文化活動情報発信事業
			まちの魅力発信事業(再掲)
	(2)「菊川アーカイブ」づくり	①「菊川アーカイブ」をつくり、市の文化に対する認識、文化づくりのきっかけや文化活動に繋げるための具体的な方法を検討	「菊川アーカイブ」づくりのための具体的方法の検討
			市の文化を理解するための書籍情報の収集
		②「菊川アーカイブ」づくりの実施内容の検討	「菊川アーカイブ」の収集方法の検討
			収集基準の検討
		③アーカイブの活用・運営方法	「菊川アーカイブ」の活用、運営
			保管・活用方法の検討

令和４年度菊川市文化振興計画評価委員会

委員名簿

役　　職	氏　　名	備　　考
委　員　長	堀切　正人	常葉大学　教育学部　教授
副 委 員 長	北原　勤	菊川市文化財保護審議会会長
委　　員	鈴木　康夫	元菊川市社会教育委員
委　　員	二俣　市代	菊川市文化協会茶道部会員
委　　員	磯部　節弘	元菊川市文苑きくがわ編集委員
委　　員	岩水　素江	菊川市体育協会会長
委　　員	伊藤　芳男	菊川市文化協会会長